

目指すべき将来像【1. (1)】:

未来を拓く おしゃれなまち こうべ

健全な都市環境と恵み豊かな自然＝「環境・エネルギー」、災害に強いまち＝「防災」という都市が備える条件の未来化を土台として、「市民力のきずな」(社会的連帯)をもとに、「健やか」、「集う」、「食す」といった市民生活の質の向上を柱とした未来都市化を志向する。

環境－1

【分野別の将来像】⇒ **環境・エネルギー**

神戸産クリーンエネルギー100%でくらす 世界一空気・水のおいしい都市

■エネルギーのベストミックスの実現

市民参加型の自立的な太陽光発電、日本で初めて都市ガスに直接利用するバイオガスなどの再生可能エネルギーの積極的な導入及び未来に向けた水素利

① 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ①環境－1

<課題・目標> a)低炭素・省エネルギー

太陽光・バイオガス・水素などの「クリーンな創エネ」と、電気と熱を一元管理するスマートエネルギーネットワーク構築などの「スマートな省エネ」により、神戸産クリーンエネルギーの地産地消を総合的に推進する。

<取組方針>

再生可能エネルギーの地産地消とエネルギーの有効利用に総合的に取り組む。

環境－2、環境－3、
環境－4は
2ページ目参照

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.市民参加型(市民活用)の大規模太陽光発電事業

神戸市の一般廃棄物最終処分場である「布施畑環境センター」の埋立完了区域を有効活用し、大規模太陽光発電事業を実施する。太陽光発電の設置費用を市債「神戸再生エネルギー市民債」の発行により調達し、太陽光発電事業の売電収益を省エネナビ無料貸出制度などの環境施策により市民に還元する、市民の環境マインドを活かした自立的な事業モデルを構築する。

b.(仮称)神戸かもめはつでんプロジェクト

港湾倉庫・上屋が多いという神戸市の長をを活かし、その屋根を活用した太陽光発電事業を民間が主体となって推進する。市は、倉庫・港湾運送事業者に対する情報提供を通じて支援する。

c.「こうべバイオガス事業」の更なる展開

下水処理の過程で発生する消化ガスを高度精製し、自動車燃料や日本初の都市ガス導管注入等に活用する「こうべバイオガス事業」を加速させる。さらに、食品残さや剪定枝などのバイオマスを加えることでガス発生量の増量をめざす「KOBEGREEN・スイーツプロジェクト」を実施する。

d.CO2フリー水素モデルタウン構想

将来のCO2フリー水素利用のさきがけとして、水素ステーションを設置し、FCV車、FCVバスを中心にその利用運用を実施する。

e.低温・未利用排熱への「マイクロバイナリー発電システム」の適用

従来ほとんど利用されていなかった中小規模の事業所での低温排熱をエネルギー源として有効活用するための小型バイナリー発電設備を設置し、工場廃熱の利用拡大に向けた実証実験を実施する。

f.民間建築物の環境性能効率向上の誘導

神戸市建築物総合環境評価制度(CASBEE神戸)等を活用し、大規模建築物の建設にあたり、一定の省エネ性能確保の義務化等の規制や環境性能の高い建築物に対する容積率の割増等の誘導を行うことにより、業務用建築物の環境性能向上を促進する。また、CASBEE-まちづくりの評価項目などを活用し、大規模な新規宅地開発にあたり、開発地区全体の環境性能に対する配慮を促す制度を設けることにより、地区単位での環境性能向上を促進する。

g.市有建築物の低炭素化の推進

市有建築物の低炭素化推進のため、平成22年度に策定した「神戸市公共建築物 建設・改修指針(低炭素化編)」に基づき、基本計画や予算見積りなど事業当初から省エネ(低炭素化)技術の導入について検討し、導入後はその効果を検証・蓄積する。

h.省エネナビの普及促進

市民参加型の大規模太陽光発電事業による果実を活用して省エネナビを1万台導入し、市民に無償で貸与する。

i.地域エネルギーマネジメントシステムとエネルギー勘定の構築

複合エネルギー(電力、熱等)を一元管理し、「スマートな省エネ」を実現するエネルギー・マネジメント・システムを構築する。構築にあたっては、市民が「創る」、「使う」、「貯める」エネルギーを資産としてとらえ、その価値情報を管理・提供する「エネルギー勘定」を構築し、市民の省エネ意識向上、市民間のエネルギー価値の異動を支援できるしくみづくりを進める。

j.総合交通計画の策定

人の移動を対象として、公共交通を中心に、自動車、歩行者、自転車等がバランス良く組み合わされた全都市的な交通体系をまとめた「総合交通計画」を、平成24年度末を目途に策定する。都心・ウォーターフロントを対象に、昨年度より先行して検討を進めており、平成23年度末に計画をまとめ、市民・事業者・行政が連携しながら具体的取り組みを検討していく。

k.フラワーロードにおける人と環境にやさしい道路整備

「デザイン都市」神戸の玄関口であるフラワーロード(神戸市中央区)において、先端的技術の複合的整備により、人にやさしく、環境に配慮しつつ都心・ウォーターフロントの活性化に資する新たな価値を創造できる道路整備を行う。

l.自転車を活用した環境にやさしい新たな交通手段の仕組みづくり

坂の多い市街地の短距離移動に適した交通手段に電動アシスト自転車等をミニシティサイクルとして利用する社会実験を実施することで、自動車利用に変わる新たな交通施策として低炭素社会の実現に貢献する可能性を検討する。

m.次世代自動車の普及促進

市の率先的な取り組みとして、公用車への次世代自動車(特に電気自動車、プラグインハイブリッド車)の導入を進めるとともに、事業者に対しては、購入補助金制度の拡充による導入促進のほか、電気自動車の走行を支える市内の充電器網の整備を進め、市民・事業者への普及促進を図っていく。

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1. (3)①】

・<①環境－1(低炭素・省エネルギー)、②超高齢化対応－1(医療産業)、③その他－2(知のネットワーク、国際化)>

スーパーコンピュータ「京」を活用した国際的なナレッジ拠点をつくり、ライフィノベーション、グリーンイノベーションを創造し、関連企業の集積を高め、新たなビジネスによる雇用創出を図るとともに、国内外への知識や技術の展開を進める。

・<①環境－2(大気・水)、②超高齢化対応－3(地域の介護・福祉)、③その他－2(知のネットワーク、国際化)>

健全な自然環境によってもたらされる「おいしい空気、清らかな水」は市民の健康を育み、森林づくり、農作業は高齢者の健康づくり、介護予防に役立つ。農林業の振興は高齢者の雇用を生み、農林業の安定化は森林・田園などの環境保全につながる。

・<③その他－2(防災・震災復興)、①環境－1(低炭素・省エネルギー)、①環境－3(自然環境・生物多様性)、③その他－2(知のネットワーク、国際化)>

神戸の災害に強い都市基盤と市民力のきずなを防災パッケージとして、東日本をはじめ世界へ広く発信する。また、自立・分散型エネルギー減の確保によるエネルギーセキュリティの向上、森林の保全と活用による自然災害リスクの低減など、防災性を高める環境取組みを、防災パッケージの新たな要素として取り込んでいく。

目指すべき将来像【1. (1)】:

未来を拓くおしゃなまち こうべ

健全な都市環境と恵み豊かな自然＝「環境・エネルギー」、災害に強いまち＝「防災」という都市が備える条件の未来化を土台として、「市民力のきずな」(社会的連帯)をもとに、「健やか」、「集う」、「食す」といった市民生活の質の向上を柱とした未来都市

【分野別の将来像】⇒ **環境・エネルギー**

神戸産クリーンエネルギー100%でくらす 世界一空気・水のおいしい都市

環境-2

環境-3

環境-4

■エネルギーのベストミックスの実現

市民参加型の自立的な太陽光発電、日本で初めて都市ガスに直接利用するバイオガスなどの再生可能エネルギーの積極的な導入及び未来に向けた水素利用など、エネルギー

環境-1は
1ページ参照

②
課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ①環境-2
<課題・目標> b)水・大気
下水の高度処理の推進と、工場・事業場や自動車等からの大気汚染物質の排出削減対策等による「排出負荷の削減」と、六甲山の緑の保全・育成による「六甲山の環境保全機能の向上」により、世界一空気・水のおいしい都市をめざし、市民の健康で豊かな暮らしを実現する。
<取組方針>
「排出負荷の削減」と「六甲山の環境保全機能の向上」に関する取組を進める。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a. 下水高度処理の推進
閉鎖性水域である大阪湾の水質環境基準の達成・維持を目的とした「大阪湾流域別下水道整備総合計画」の基本方針に基づき、通常の処理方法では十分に処理できなかった栄養塩類(窒素NやリンP)の除去を目的とした高度処理施設の整備を実施する。
- b. 「六甲山森林整備戦略」の策定
これからの100年を見据えた森林の将来像や保全育成の方針、各主体間の役割分担や連携のあり方、それに基づく具体施策などを定めると共に、人材育成、新たな雇用機会の創出、カーボンオフセット制度の活用、間伐材のバイオマスエネルギー利用など新たな技術開発や仕組みづくりなどを盛り込んだ、「六甲山森林整備戦略」を策定し、具体的な取組を進める。
- c. 総合交通計画の策定(再)
人の移動を対象として、公共交通を中心に、自動車、歩行者、自転車等がバランス良く組み合わせられた全体的な交通体系をまとめた「総合交通計画」を、平成24年度末を目途に策定する。都心・ウォーターフロントを対象に、昨年度より先行して検討を進めており、平成23年度末に計画をまとめ、市民・事業者・行政が連携しながら具体的な取組を検討していく。
- d. フラワーロードにおける人と環境にやさしい道路整備(再)
「デザイン都市」神戸の玄関口であるフラワーロード(神戸市中央区)において、先端技術の複合的整備により、人にやさしく、環境に配慮しつつ都心・ウォーターフロントの活性化に資する新たな価値を創造できる道路整備を行う。
- e. 自転車を活用した環境にやさしい新たな交通手段の仕組みづくり(再)
坂の多い市街地の短距離移動に適した交通手段に電動アシスト自転車等をコミュニティサイクルとして利用する社会実験を実施することで、自動車利用に変わる新たな交通施策として低炭素社会の実現に貢献する可能性を検討する。
- f. 次世代自動車の普及促進(再)
市の率先的な取り組みとして、公用車への次世代自動車(特に電気自動車、プラグインハイブリッド車)の導入を進めるとともに、事業者に対しては、購入補助金制度の拡充による導入促進のほか、電気自動車の走行を支える市内の充電器網の整備を進め、市民・事業者への普及促進を図っていく。

③
課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ①環境-3
<課題・目標> c)自然環境・生物多様性
「みどりの聖域づくり」を継続して進めるとともに、「生物多様性神戸プラン2020」、「六甲山森林整備戦略」に基づく施策を展開することにより、本市の大都市としてまれな優れた自然環境を保全し、生物多様性の保全・向上を図る。
<取組方針>
第都市としてまれな優れた自然環境を保全し、多様な生きものの生息・育成を維持することにより生物多様性の保全・向上を図る。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a. 緑のカーテンプロジェクトの全市展開
市民や事業者へゴーヤ等の種子や植栽ネットを配布することや生育状況に関するコンテストを開催することにより、緑のカーテンの全市展開を図る。
- b. 冬期湛水水田による生物多様性の向上
稲の収穫後の水田に水を張る(冬期湛水)ことによって、水生生物や水鳥(渡り鳥)などが利用できる環境を再生するモデル事業。平成23年2月に策定した「生物多様性神戸プラン2020」の重点事業の一つとして位置づけている。
- c. 「六甲山森林整備戦略」の策定(再)
これからの100年を見据えた森林の将来像や保全育成の方針、各主体間の役割分担や連携のあり方、それに基づく具体施策などを定めると共に、人材育成、新たな雇用機会の創出、カーボンオフセット制度の活用、間伐材のバイオマスエネルギー利用など新たな技術開発や仕組みづくりなどを盛り込んだ、「六甲山森林整備戦略」を策定し、具体的な取組を進める。

④
課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ①環境-4
<課題・目標> 3R
市民一人一日あたりのごみ処理量は指定都市で最低レベルを、世帯あたりの資源集団回収量は指定都市NO.1を目指す。
<取組方針>
市民一人あたりの家庭ごみの処理量を削減するため、「ごみ」となるものを家庭に持ち込まない、いわゆる「リデュースの推進」と「ごみと資源の分別の徹底」を推進する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a. レジ袋の削減
レジ袋削減に賛同するスーパー等の事業者と市民団体(神戸市地球環境市民会議)と神戸市の3者で「レジ袋削減協定」を締結し、事業者は無料配布の中止・マイバッグ持参の呼びかけ・レジ袋辞退者へのポイント付与等を行い、3者協働でレジ袋ごみの削減に取り組む。
- b. 「雑がみ」リサイクルの推進
「雑がみ」リサイクルは、自治会、婦人会、子ども会、PTAといった地域の団体が中心となって、リサイクルを推進している。実施団体は、約2500団体、古紙等の回収量は、22年度で約68,500tとなっている。特に、「燃えるごみ」の中に含まれる、種類や大きさが様々で分別しにくく、新聞や段ボールに比べて資源化の進んでいない「雑がみ」のリサイクルを進めるため、「雑がみ保管袋」を作成し、実施団体等を通じて配布し、「雑がみ」の資源化を図る。
- c. 段ボールコンポストの推進
家庭系「燃えるごみ」に約4割含まれる厨芥類(生ごみ)の減量が、家庭系ごみの減量につながる重要な対策と考えられることから、生ごみを減らす対策として、生ごみの水切りなどを啓発するとともに、生ごみを堆肥化できる段ボールコンポストの作り方などを講習会や環境イベント等を通じて広く市民へ啓発を行う。
- d. 「こうべバイオガス事業」の更なる展開(再)
下水処理の過程で発生する消化ガスを高度精製し、自動車燃料や日本初の都市ガス導管注入等に活用する「こうべバイオガス事業」を加速させる。さらに、食品残さや剪定枝などのバイオマスを加えることでガス発生量の増量をめざす「KOBEGリーン・スイーツプロジェクト」を実施する。
- e. こうべエネルギー・マネージメント・システムとエネルギー勘定の構築(再)
複合エネルギー(電力、熱等)を一元管理し、「スマートな省エネ」を実現するエネルギー・マネージメント・システムを構築する。構築にあたっては、市民が「創る」、「使う」、「貯める」エネルギーを資産としてとらえ、その価値情報を管理・提供する「エネルギー勘定」を構築し、市民の省エネ意識向上、市民間のエネルギー価値の異動を支援できるしくみづくりを進める。

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1. (3)①】

- ・<①環境-1(低炭素・省エネルギー)、②超高齢化対応-1(医療産業)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
スーパーコンピュータ「京」を活用した国際的なナレッジ拠点をつくり、ライフイノベーション、グリーンイノベーションを創造し、関連企業の集積を高め、新たなビジネスによる雇用創出を図るとともに、国内外への知識や技術の展開を進める。
- ・<①環境-2(大気・水)、②超高齢化対応-3(地域の介護・福祉)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
健全な自然環境によってもたらされる「おいしい空気、清らかな水」は市民の健康を育み、森林づくり、農作業は高齢者の健康づくり、介護予防に役立つ。農林業の振興は高齢者の雇用を生み、農林業の安定化は森林・田園などの環境保全につながる。
- ・<③その他-2(防災・震災復興)、①環境-1(低炭素・省エネルギー)、①環境-3(自然環境・生物多様性)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
神戸の災害に強い都市基盤と市民力のきずなを防災パッケージとして、東日本をはじめ世界へ広く発信する。また、自立・分散型エネルギー減の確保によるエネルギーセキュリティの向上、森林の保全と活用による自然災害リスクの低減など、防災性を高める環境取組みを、防災パッケージの新たな要素として取り込んでいく。

目指すべき将来像【1. (1)】:

未来を拓くおしやれなまち こうべ

健全な都市環境と恵み豊かな自然＝「環境・エネルギー」、災害に強いまち＝「防災」という都市が備える条件の未来化を土台として、「市民力のきずな」(社会的連帯)をもとに、「健やか」、「集う」、「食す」といった市民生活の質の向上を柱とした未来都市化を志向する。

【分野別の将来像】⇒ **健やか**

子どもから高齢者まで健やかに暮らし健康寿命世界一をめざす都市

■総合的な取組で超高齢化を克服

「ライフステージ全般を通じた健康づくり」を基本として、医療産業・地域医療・地域の介護・福祉から成る「安心を支える基盤整備(セーフティネット)」により市民を守り、安心して出産・子育てができ、高齢者が元気に社会参加できる都市を実現する。

① 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化-1

<課題・目標> e)医療産業

日本のみならずアジアで急速に進む高齢化に対応すべく、先端医療技術の提供による市民福祉の向上、要介護率の低下による社会活力の向上と医療費の削減、医療・健康・福祉関連産業の活性化及び国際貢献を目指す。

<取組方針>

神戸医療産業都市の成果活用による、がん治療、再生医療などの先端医療の提供や、医療産業関係の企業集積の加速化、高度専門医療機関による海外医療人材の育成を推進する。

② 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化-2

<課題・目標> f)地域医療

健康危機管理・救急医療体制・24時間365日の安心を支える在宅医療を充実させ、市民の健康を守るセーフティネットを確保・強化する。

<取組方針>

救急医療体制の充実、救急業務の高度化の推進、感染症に対する早期探知などの健康危機管理体制の充実、高齢者の在宅医療の充実を進める。

③ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化-3

<課題・目標> g)地域介護・福祉

高齢者が自己能力を發揮でき、その自己決定が尊重され、希望する場所でその生活が継続できる社会をめざす。

<取組方針>

「新・健康こうべ2」運動を通じた健康づくりや介護予防を推進、住宅セーフティネットの充実、地域包括ケアの推進、ICTを用いた見守り・支援システムなどの推進に取り組む。

④ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化-4

<課題・目標> 子育て・教育

子どもの利益が最大限尊重され、子どもが健やかに育まれるとともに、すべての人が安心してゆとりを持って子どもを産み育てることができるよう、子育てを社会全体で支える。

<取組方針>

「神戸っすこやかプラン」に基づく、安心して出産も子育てもできる取組や、女性の仕事と生活の調和と子育てを支援する社会基盤の構築を推進する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.神戸医療産業都市の推進

近年のアジア諸国における新興バイオクラスターの台頭に鑑み、国の総合特区制度も活用しながら、神戸において国の成長戦略の重点戦略に掲げられた「ライフ・イノベーション」のグローバル拠点形成を目指す。また、医療産業都市の研究基盤や成果を「健康・福祉」の分野にも応用し、市民の科学的な健康づくりの支援と健康関連産業の活性化を図る「健康を楽しくまちづくり」を推進する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.新たな感染症対策(神戸モデル)の推進

神戸モデルの目的は、学校園等の地域施設と連携して感染症発生を早期探知し、迅速に対応することによって、感染拡大を防止し、市民の健康を守るとともに社会的機能の維持を図ることである。具体的には、地域関係施設職員と顔の見える関係づくりを行い、感染症情報の共有や研修による感染症対策連絡会や実務者会の開催、メーリングリスト等の整備、地域の感染症への対応力の養成などを行っている。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.地域包括ケアを実現するための介護基盤の包括的な整備

24時間365日の在宅生活支援を図るため、在宅生活の継続に必要なサービスの充実・強化。また、身近な地域で地域の特性に応じた多様な柔軟なサービス提供が可能となる地域密着型サービスの促進。また、介護保険制度外サービスの提供システムを確立し、介護保険事業計画、高齢者居住安定確保計画に基づく高齢者の適切な住まいの確保、保健・医療・福祉の連携の仕組みづくりとして、神戸市介護サービス協会活動の充実と地域ケアネットワーク(保健・医療・福祉連絡会議)の充実を図る。

b.住宅セーフティネットの構築

市営住宅において、特定目的住宅の供給やグループホーム・ケアホームの整備促進、民間賃貸住宅においては、住宅確保要配慮者が入居しやすくなるよう、バリアフリー化の促進や家主への支援を行う。市営住宅では建て替えにあたり、高齢者等にも優しい仕様での整備、既存住宅へのエレベーター設置、民間住宅では共用部分のバリアフリー化を推進していく。これらにより、世帯の特性に応じて誰もが安心して住まえる良質な住宅を確保し、住宅セーフティネット機能を充実する。

c.地域住民主体の見守りシステムの拡充

本市では従来から、地域包括支援センターに市独自の見守り推進員を配置し、地域の民生委員やボランティア等と連携した地域見守り活動を展開してきた。今後はさらに、地域の民間事業者が日常業務の中で、高齢者の異常を察知した場合などに、地域包括支援センターに通報する仕組みづくりを行う。さらに、地域見守り活動について、一層の周知を図るための広報・啓発の強化を図ることにより、重層的な見守り体制を構築する。

d.介護・福祉人材の確保・定着の取り組み

将来の福祉・介護需要を見据え、国・県・市・事業者・養成校などが協力して、教育・雇用・介護福祉現場などの各分野において、①潜在的有資格者のほりおこし事業の実施など、「民間事業者と連携した介護従事者の確保・定着対策の実施」や、②中学校での講習会開催、施設体験受入れ事業等の拡大、事業所におけるキャリアラダーの仕組みづくり支援など「介護分野の社会的評価の向上」の取り組みを推進していく。

e.神戸市シルバーカレッジを核とした地域活動の促進

神戸市では高齢者の豊富な経験を活かして自らの可能性を拓き、その成果を社会に還元することをめざした学習・実践活動の場として、市内在住の57歳以上の高齢者を対象に、平成5年9月からシルバーカレッジ(建学精神:「再び学んで他のために」)を設置している。平成22年度までに約5,400人の卒業生があり、卒業後も地域のボランティア活動に携わっている。今後、超高齢化社会を迎えることとなるが、シルバーカレッジを核とした地域活動の促進により高齢者を地域で支える取り組みを進めていく。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.地域子育て支援拠点の拡充

核家族化の進行等に伴い、在宅育児家庭等における育児の孤立や保護者の育児不安等への対応が急務となっている。そこで、地域の在宅親子支援の拠点として、地域子育て支援センターによる体験保育や育児相談、子育て関連情報の提供等を行う。また、市内の大学と連携し、乳幼児が自由に遊べるスペースを大学内等に設け、子育て支援の場を提供するとともに、将来親となる大学生がボランティアで子育て支援に参加できる場とする。

b.保育所整備等による待機児童の解消

少子化の進行にもかかわらず、女性の就労増などの状況により保育需要は増加の一途をたどっているため、保育所の新增築等により受け入れ枠の拡大を進め、待機児童の解消を図り、女性が安心して出産・子育てができる環境を実現する。

c.「子ども見守り活動隊」の活動推進

子どもたちが安全に学校生活を過ごせるよう、市内すべての小学校に「子ども見守り活動隊」が結成され、保護者・地域ボランティア等が連携して、見守りポイントでの立ち番や挨拶、パトロール等登下校時における子どもの見守り活動を行っている。「見守り活動隊」の防犯に関する知識を向上させるため、スキルアップ教室や安全管理研修を行う。

d.神戸っすこ応援団

家庭・地域、学校、行政が一体となって、小学校1年生から中学校3年生までを一貫して、学習支援、登下校時の見守りなどの学校教育活動の支援をすることによって、子どもたちの健全な育成を図ろうとする取り組み。

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1. (3)①】

・<①環境-1(低炭素・省エネルギー)、②超高齢化対応-1(医療産業)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>

スーパーコンピュータ「京」を活用した国際的なナレッジ拠点をつくり、ライフイノベーション、グリーンイノベーションを創造し、関連企業の集積を高め、新たなビジネスによる雇用創出を図るとともに、国内外への知識や技術の展開を進める。

・<①環境-2(大気・水)、②超高齢化対応-3(地域の介護・福祉)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>

健全な自然環境によってもたらされる「おいしい空気、清らかな水」は市民の健康を育み、森林づくり、農作業は高齢者の健康づくり、介護予防に役立つ。農林業の振興は高齢者の雇用を生み、農林業の安定化は森林・田園などの環境保全につながる。

・<③その他-2(防災・震災復興)、①環境-1(低炭素・省エネルギー)、①環境-3(自然環境・生物多様性)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>

神戸の災害に強い都市基盤と市民力のきずなを防災パッケージとして、東日本をはじめ世界へ広く発信する。また、自立・分散型エネルギー減の確保によるエネルギーセキュリティの向上、森林の保全と活用による自然災害リスクの低減など、防災性を高める環境取組を、防災パッケージの新たな要素として取り込んでいく。

目指すべき将来像【1. (1)】:

未来を拓くおしゃなまち こうべ

健全な都市環境と恵み豊かな自然＝「環境・エネルギー」、災害に強いまち＝「防災」という都市が備える条件の未来化を土台として、「市民力のきずな」(社会的連帯)をもとに、「健やか」、「集う」、「食す」といった市民生活の質の向上を柱とした未来都市化を志向する。

【分野別の将来像】

防災

集う

食す

その他-1

災害にしなやかに対応し
被害を最小化する レジリエントな都市

人・物・情報が世界一集積し
活力と文化にみちあふれる都市

大都市一の地産地消で
安全・安心な神戸ブランドの食が楽しめる都市

その他-2

■震災復興の経験を活かした貢献
神戸の街をより一層災害に強い街にするともに、震災復興を成し遂げたハード・ソフト両面の知見・技術等を活かして、東日本の復興支援に貢献する。

■知のネットワーク形成
京速コンピュータ「京」を活用したナレッジ拠点を形成し、国内外から企業集積を図るとともに、新たな技術開発等による経済成長をめざす。

① 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ③その他-1
<課題・目標> i)防災・復興支援
災害にしなやかに対応し、被害を最小化するレジリエントな都市をめざす。
<取組方針>
「ハード面」「ソフト面」の取組みにより災害に強いまちを創りあげていくとともに、「東北地方の早期復興の支援」により、被災地及び我が国全体の経済活性化、社会的連帯の回復に寄与していく。

② 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ③その他-2
<課題・目標> j)知のネットワーク・国際化
人・物・情報が世界一集積し、活力と文化にみちあふれる都市をめざす。
<取組方針>
「知」の財産を通じて「人」「物」「情報」が国内外から神戸に集い、交流する活力と文化にみちあふれた都市を目指し、「知の集積」、「人の集積」、「物の集積」を図っていくための取組を実施する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a.危機管理センターの整備・運営**
地震や台風といった自然災害、健康危機や大規模テロ・事故災害などの危機の発生に対して、初期から迅速かつ効果的な対応が可能となるように、危機管理の中核機能を集約するとともに、新危機管理情報システムや消防新管制システムなどを備え、災害発生時にも安定的・継続的に機能を維持するために十分な耐震性を備えた「危機管理センター」を整備する。
- b.震災復興を通じた「災害と環境に強い上下水道」の構築**
神戸市の大動脈である六甲山中の2本の既設送水トンネルに加え、バックアップとして新たに市街地を通る大容量送水管を整備する。バックアップ機能の他にも貯留機能を持ち、渋滞などで運搬給水が困難な市街地での応急給水にも対応できるほか、配水地などが被災した場合には大容量送水管を利用することで早期通水が可能となる。
- c.防災福祉コミュニティ(BOKOMI)の世界への発信**
震災を教訓として生まれた自主防災組織である「防災福祉コミュニティ」の取り組みを、JICA研修や視察受け入れなどを通じて広く海外や他都市に発信していく。この「防災福祉コミュニティ」は通称「防コミ」といい、海外発信の際には「BOKOMI」とアルファベットで表記していく。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a.スーパーコンピュータを活用した『ナレッジ』の拠点づくり**
次世代スーパーコンピュータ(京速コンピュータ「京」)は、国家基幹技術として、平成18年3月、ポートアイランド第2期に立地が決定し、平成24年の供用開始を目指して、(独)理化学研究所によって整備が進められている。稼働後は、国内外の研究者等に幅広く開かれた共用施設として利用される予定。
- b.水・インフラ事業海外展開**
取水から浄水、給・配水、下水処理に至る一連の水処理技術や阪神・淡路大震災における経験や教訓などの多くのノウハウを保有していることから、「国際貢献」「神戸経済の活性化」「技術・技能継承」を目的とし、海外展開を志向する地元企業等からの支援要請に基づき、上下水道分野における地元企業等の海外展開を積極的に支援していく。
- c.提携都市との交流セミナー**
神戸市と姉妹・友好都市や親善協力都市として提携関係にある海外諸都市との間で共通する都市課題ごとに交流セミナーを開催する。
- d.神戸ならではの観光の推進**
六甲山・摩耶山、有馬温泉という都心近郊にある魅力ある観光素材に磨きをかけて、六甲・有馬の誘客の相乗効果を図る。また、多彩な食文化、アパレルや洋菓子などの神戸ファッション、まちなみ、地域の伝統文化、平清盛ゆかりの史跡などの歴史的資源、ものづくり産業などにスポットをあて、震災学習とあわせて観光資源として活用し、体験し、楽しみ、学ぶ観光を推進する。
- e.主要幹線道路ネットワークの構築**
神戸の広域的な拠点機能を高める「広域圏幹線道路」と、市内の一体性を高める全市的な機能を担う「都市内幹線道路」等からなる「主要幹線道路」を位置づけ、着実に整備を進める。

- f.神戸空港の機能強化**
神戸空港は、神戸経済の活性化のみならず、関西国際空港や大阪国際空港とともに、関西圏全体の発展に寄与する重要な都市基盤である。利用者の利便性の向上や関西経済発展のため、3空港それぞれの能力を最大限活用して最適運用をめざす視点が重要であることから、神戸空港の機能充実・規制緩和の実現をめざす。
- g.地産地消の推進**
「こうべ旬菜」をはじめとする地産農水産物について、食育やこうべ給食畑の事業の推進などを通じ消費者等への情報発信に努めるとともに、市内小売店や飲食店とのマッチングや連携、直売所の活用なども含めた多様な販売経路を確保し、地産地消を強力に推進していく。
- h.後継者や新規参入者などの人づくりの推進**
地域農業の多様な担い手を育成するため、意欲ある農業者や集落営農組織に支援をする。新たな担い手の確保を図るため、新規就農希望者に対して、指導力のある農業者による研修や農地あっせんなどを行うことで就農促進を図る。
- i.神戸ブランド化の推進**
農産物における「こうべ版GAP(農業環境規範)」の導入推進を通じ、環境に配慮した安全・安心な農産物づくりを推進する。また須磨海苔の初摘みなど、付加価値の高さなどをアピールするとともに、農水産業と商工業等の他産業連携によって、食べ方や加工食品など新たな「美味しいものづくり」を進め、発信し、市内農産物のブランド化を推進する。
- j.ドライフォグ栽培システムの研究開発**
神戸地域における農業振興の一環として、神戸市立フルーツ・フラワーパークを中心にドライフォグ(ぬれない霧)を活用した低環境負荷・低コストの新しい施設園芸に関わる栽培システムの研究開発について、産官学が連携して全国でも初めてとなる取り組みを進める。

複数の課題・目標を一體的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1. (3)①】

- <①環境-1(低炭素・省エネルギー)、②超高齢化対応-1(医療産業)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
スーパーコンピュータ「京」を活用した国際的なナレッジ拠点をづくり、ライフノベーション、グリーンイノベーションを創造し、関連企業の集積を高め、新たなビジネスによる雇用創出を図るとともに、国内外への知識や技術の展開を進める。
- <①環境-2(大気・水)、②超高齢化対応-3(地域の介護・福祉)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
健全な自然環境によってもたらされる「おいしい空気、清らかな水」は市民の健康を育み、森林づくり、農作業は高齢者の健康づくり、介護予防に役立つ。農林業の振興は高齢者の雇用を生み、農林業の安定化は森林・田園などの環境保全につながる。
- <③その他-2(防災・震災復興)、①環境-1(低炭素・省エネルギー)、①環境-3(自然環境・生物多様性)、③その他-2(知のネットワーク、国際化)>
神戸の災害に強い都市基盤と市民力のきずなを防災パッケージとして、東日本はじめ世界へ広く発信する。また、自立・分散型エネルギー減の確保によるエネルギーセキュリティの向上、森林の保全と活用による自然災害リスクの低減など、防災性を高める環境取組みを、防災パッケージの新たな要素として取り込んでいく。